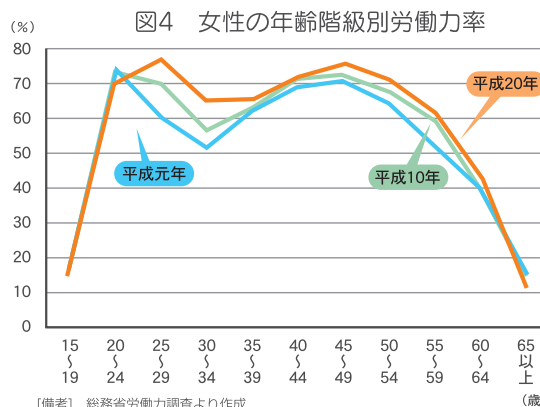


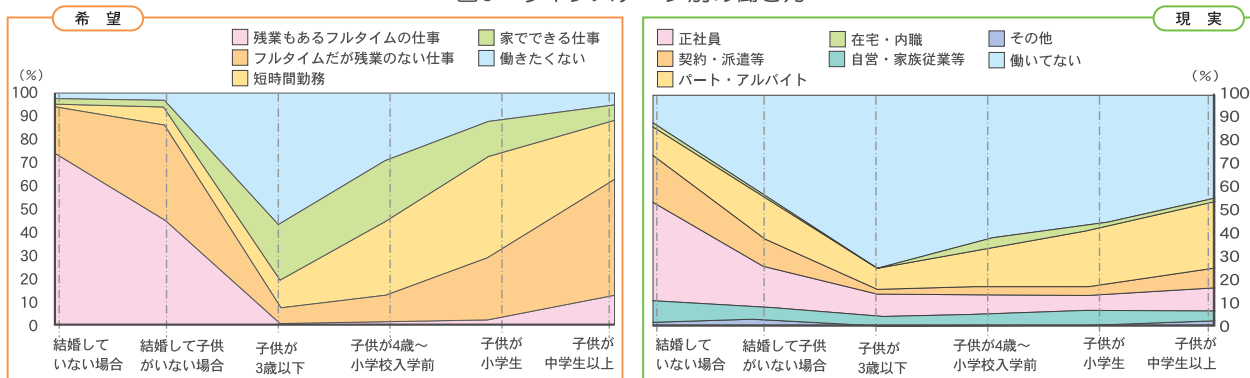
働く女性の現状を知っておくと、再チャレンジの計画を立てるときに有利です。

- 働く女性の率を年齢別にみると、30歳代が底のM字カーブを描いています。この20年間、M字カーブの底は次第に上がってきています。（図4）

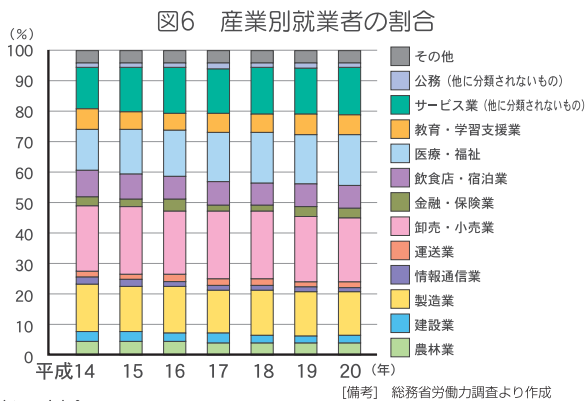


- M字カーブの背景は、子どもが小さな時期は働きたくないという人や、働きたいが希望する働き方ができないために働いていない人などがいることです。子どもが中学生以上では9割以上の人々が働くことを希望しています。しかし、現状は、働いていない人が多く、働き方もパート・アルバイトに集中しており、希望と現実との間にギャップがみられます。（図5）

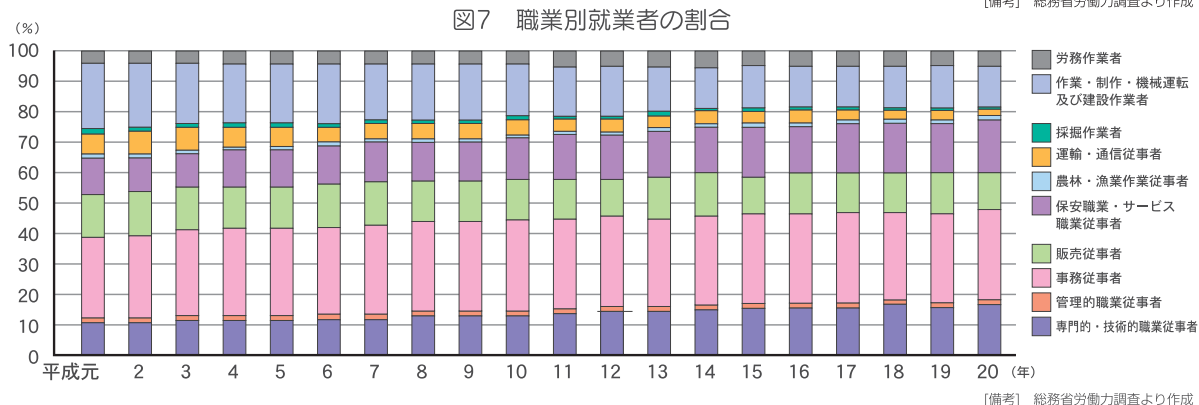
図5 ライフステージ別の働き方



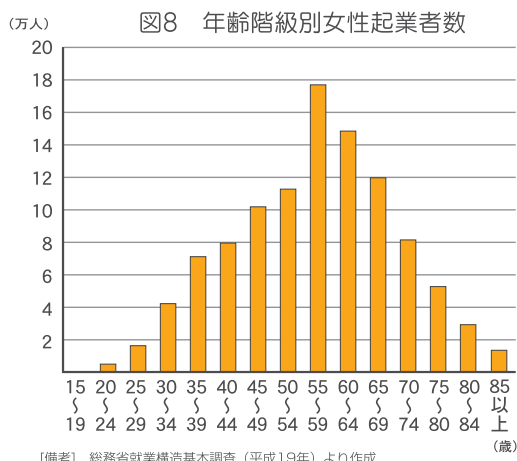
- 産業別に就業者の割合をみると、医療・福祉の分野で就業者の割合が増えています。（図6）



- 職業別に就業者の割合をみると、特に、専門的・技術的職業従事者と保安職業、サービス職業従事者が増えています。農林漁業作業従事者は減っています。（図7）

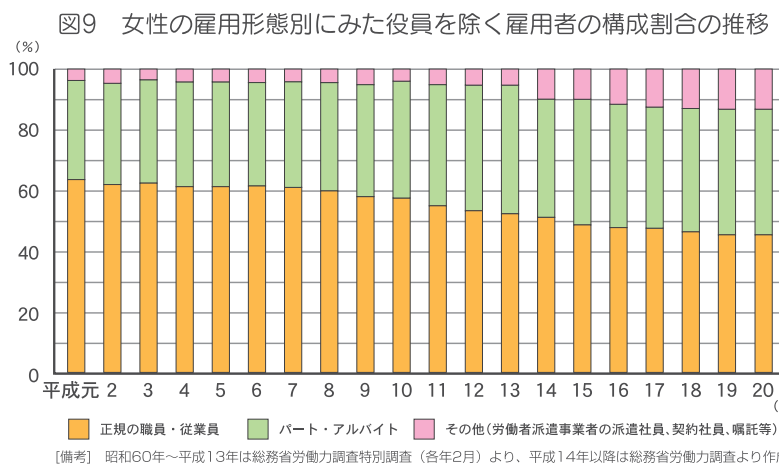


●有業者に占める起業者の割合は3.8%です。年齢別にみると、55～59歳で起業者の数が最も多くなっています。(図8)



●働く女性に占める雇用者の割合は増加しており、現在は約9割となっています。雇用者の中で、パート・アルバイトや派遣社員等の割合は増加傾向にあります。(図9)

●給与水準は、男性一般労働者と、女性一般労働者やパートタイム労働者との格差が縮小しているものの、依然として大きい状況にあります。(図10)



●専門的・技術的職業従事者が不足していると感じている企業では、再就職女性を正社員として採用することが多くなっています。専門的な技術や資格があると就職活動に有利な場合が多いでしょう。(図11)

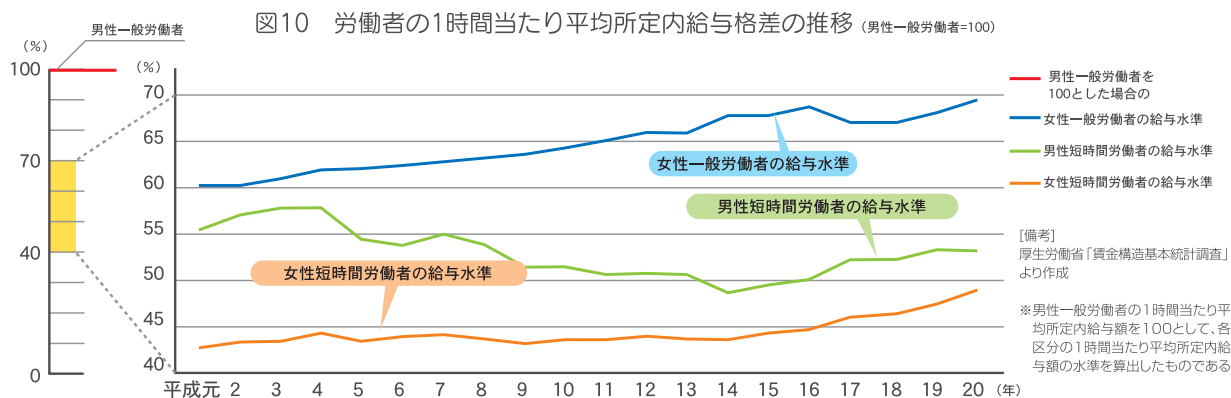


図11 再就職女性の採用実績別、企業が不足感を感じている職種

